

【目指す姿】
ふるさとを好きになり、大切にしていこうとする子

	評価項目	評価基準	1 学期		2 学期	
			評価	分析及び考察	評価	分析及び考察
成果及び教育活動	○積極的に地域とかかわり、地域を生かした探求的な学習をすることで、ふるさとを好きになり、大切にしていこうとする児童が増える。	・教師の見取り（態度、学習の記録等）で目指す姿を達成した児童の割合が、全体の８５％以上。 ・児童アンケートで目指す姿を達成した児童の割合が、全体の８５％以上。 「活動を通して、地域の人や自然のよさが分かり、それを大切にしていこうと思いましたか。」 →両方達成でA評価	教師 92.9 % 児童 92.1 %	<総合評価：A> ・地域の方とかかわりながら活動することができた。 （１年生：八色の森公園 ２年生：野菜栽培・ヤギの飼育 ３年生：三十三番観音めぐり等 ４年生：川の観察） ・地域の方とかかわる段階に達していないが、現段階で計画している学年もある。２学期に確実に実施する。 ・クラブ活動や委員会活動、特設鼓笛、日本語指導学級等でも、地域の方とかかわる機会が多くもてた。その中で地域のよさに気付き、大切にしていこうという気持ちが育ってきている。	教師 94.1 % 児童 95.5 %	<総合評価：A> ・１学期に引き続き、地域の方とかかわり地域で活動した学年が多かった。学習発表会では、「ふるさとを好きになり、大切にする」というねらいに沿って、生活科や総合の学習の発表をした学年が多くあった。活動を通してから、子どもたちの地域に対する思いが更に高まった。 ・夏季休業中に、外部講師から『探求的な学習を実現するためのポイント』というテーマで研修した。研修後、２学期の活動に活用することができた。１年間のまとめ方について、３学期に子どもたちの意見も取り入れながら、これまでの積み重ねが分かるようにしていく。
	○「外国の人や文化にかかわる活動」により、相手の思いを受け止めたり、自国の文化や伝統のよさに気付いたりする児童が増える。	・教師やA L Tの見取り（態度、感想）で国際科の評価基準を達成した児童の割合が全体の８５％以上。 ・児童アンケートの結果から、国際科の評価基準を達成した児童の割合が全体の８５％以上。 「活動を通して、外国と日本の違いを感じ、そのよさを感じることができましたか。」 →両方達成でA評価	教師 94.4 % 児童 89.3 %	<総合評価：A> ・外国の方とかかわることを意識しながら、国際科の準備や活動をすることができた。実際に、国際科の時間に学んだことを実践する児童の姿が見られた。 ・外国の文化を受け入れるだけでなく、日本の文化を発信していけるとよい。	教師 94.1 % 児童 93.0 %	<総合評価：A> ・外国の方とかかわることを意識しながら、国際科の準備や活動をすることができた。実際に、国際科の時間に学んだことを外国籍児童や、留学生に実践する児童の姿が見られた。 ・国際大学の留学生の訪問で、どの学年も交流を図った。その際、英語で、日本、南魚沼、浦佐の紹介をした学年もあった。 ・外国の方に限らず、相手の思いを受け止めたり、相手のよさや自分のよさにも気付けるようにするとよい。
運営活動	○生活科や総合的な学習で地域とのかかわりをもつ活動について、学期末に見直し、修正を行う。 ○地域の人に感謝の気持ちを表す場を設定する。 ○国際科の充実を図るための職員研修と、指導計画の見直し・修正を行う。 ○外国籍児童から学ぶ機会を設定する。	・夏季休業中に「生活科・総合的な学習の時間に関する校内研修」を実施する。（「総合」部と連携） ・地域人材（浦佐地域づくり協議会等も含む）を活用する。 ・世話になった方に、お礼の手紙を書く場を設定する。 ・３月の生活目標「感謝の気持ちを伝えよう」（こころ部と連携）に関連させた活動を設定する。 ・８月に職員研修を実施する。 ・学期末毎に指導計画を見直す。 ・お話朝会で、「世界のあいさつ」の紹介をしてもらったり、出身国の文化を教えてもらったりする。	<取組評価：C> ・夏季休業中は、「生活科・総合的な学習の時間に関する校内研修」単独での校内研修を実施することはできなかった。 ・夏季休業中に各学年で構想を見直し、ゴールや発表の場を確保していく。 ・人材バンクー一覧表を作成する。 <取組評価：A> ・世話になった方へお礼の手紙を書いた。今後も感謝の気持ちを伝える活動を実施する。 <取組評価：A> ・各学年が国際科の年間計画を作成し、計画的に国際科の活動を進めている。夏季休業中に見直し、２学期の計画を立てていく。 <取組評価：A> ・外国籍児童と保護者から、母国を紹介する活動を実施した。 ・２学期は、留学生の訪問を予定している。１学期とは異なる国の紹介を実施する予定である。	<取組評価：A> ・長期休業中に外部講師を招聘し、『探求的な学習を実現するためのポイント』というテーマで研修を実施した。 <取組評価：A> ・学習発表会では、「感謝と思いやりの心をもち、認め合う」を意識して取り組んでいる学年が多かった。 ・外部団体の読み聞かせに対するお礼の手紙等、感謝の気持ちを直接伝えることができた。 <取組評価：A> ・１０月にジョリーフォニックスの示範授業を全職員で参観し、研修を深めた。 ・英語の教科化に向けて、文科省等からの資料を共通理解する。 <取組評価：A> ・２学期も外国籍児童とその保護者から、母国を紹介する活動を実施した。３学期も継続する。 ・３学期に外国籍児童の母国語であいさつ運動を実施する。		